



「記録史料の保存を考える会」 旗揚げ

「記録史料の保存を考える会」は、全史料協の関東地域の方々と個人的に記録史料の保存に関心を持つ方や会員外で史料の保存利用・修復に関わる方等の有志によって構成されている会であり、1991年7・8月と準備会、10月より第1回として会を旗揚げしてそろそろ一年を迎えようとしている。

——日々、記録史料を取り扱う私たちにとって、「本当に史料にとっていごちのいい環境・条件や保存のための防護と対策、修復処置、保存を考えた利用とはどういったものなのか」ということは、頭を悩ませてしまうところだ。

——今日、情報としては様々な保存方法や修復技術が紹介され始めていますが、まだまだ日本においては歴大な近世史料や劣化した酸性紙の文書に対しての実例は数少なく、対応としてどうなのか、確信が持てないでいるというのが現状のようです。とはいえ、これ以上記録遺産に犠牲を強いて、決断もせずに手をこまねいて、未来の世代に残すことができなかつたとしたら、取り返しがつかないと憂いている方もすくなくはないでしょう。

——そこで、保存を考える「場」としてこの会を企画してみました。

このような呼び掛けに共感した方が現在40名程で、毎月の会に平均20名が参加している。これまでに『記録と史料』2号掲載の「記録史料の保存レポート」をもとに、メンバー同士の保存の現場についてディスカッションし、

建設的な意見交換の場となり、その後、各自が保存問題の中で強く興味のあるテーマを選んで運営するというように進めてきた。

これからは、全国に向けて会の「記録集」の発行や保存に関心のある方のため「ビデオ研究会」等を企画し、意見交換の広がりも考えているところです。日本図書館協会の資料保存委員会が図書館界の資料保存の普及と確立を目指しているとするれば、この会は文書館界にその旗をあげたといえます。詳しく知りたい方は「記録史料の保存を考える会」事務局廣瀬睦（〒142品川区旗の台5-23-2-407）まで。
廣瀬 睦・国立史料館